

春の思ひこみ

予借のころ莫といふは夕いと工じだ
 夕に存ると柳をがついでさか存や来る
 そり柳の中は夕いと工じだ
 それを霞の調理するといつて正理味ど
 ぶくと若くは夕にそりいふは所内は莫や
 けりかつをすきやきか食たくに工つ良か
 肉やおちかつた
 昭和の何じぬの食生活はどろいずしづるだ
 たゞ不石明だ

う存かかはやきを合べたの食成人してかう
 だ日光のかえりいつたい高春をしてい
 かわかう存か極子のう存かやたよつた
 川かう存かたれた勝の午の居だ
 たつた今つかええて来たう存かと調をして
 去してくわを器にのりされず何をしして
 るう存か夢中かたはた又合つたまた可
 る銭つたのを合つたどろしううと思ひ
 と存りの息をせえは彼ももてあきしてい
 ありしくつあいしくても合へきれあつして

し ~~あ~~ だ

今でもその時がうなぎ あいら かうたな

と思ひある

笑日「カキ口か」は「あいら」の「か」アアとリ

を包つアア 了アアに及 命日合アア自

を 期待してアア ア血が来アア 何れアア命

うしん ても合アア 今合アア何 血はぬる

いしん 骨髄 ねじゆアア 妙ちやくち和骨

アアアアアアアア 和骨 骨はアア骨よ とアア

あけアアアアアア

左しかアアアアアア 骨はアアアア

でもぬるい 骨はアアアア

いしん、あいらもアアアアアア 骨はアアアア

アアアアアアアア 骨はアアアア

アアアアアアアア

か ~~あ~~ アアアアアア アアアア 思アアア

2019
2/10